はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和５０年７月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では６種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の８業種を選定しております。

① 縫製業
② 電子部品・半導体製造業
③ 漆器業
④ 木材業
⑤ 建具業
⑥ 織布業
⑦ 繊維・雑品業
⑧ 観光業

今回の調査は、平成３０年４月～６月期の業況実績と、平成３０年７月～９月期の見通しについて、管内７７０先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I.（Diffusion Index）拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

＊＊＊＊ 目次 ＊＊＊＊

１．概　況・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．地区内の業況D.I. 推移・・・・・・ 2
３．一般業種の業況
(1) 製造業・・・・・・・・・・・・・・ 3
(2) 卸売業・・・・・・・・・・・・・・ 4
(3) 小売業・・・・・・・・・・・・・・ 5
(4) サービス業・・・・・・・・・・・・ 6
(5) 建設業・・・・・・・・・・・・・・ 7
(6) 不動産業・・・・・・・・・・・・・ 8

４．地場産業の業況
(1) 能登地区の縫製業・・・・・・・・ 9
(2) 能登地区の電子部品
・半導体製造業・・・・・・ 10
(3) 能登地区の漆器業・・・・・・・・ 11
(4) 能登地区の木材業・・・・・・・・ 12
(5) 能登地区の建具業・・・・・・・・ 13
(6) 能登地区の織布業・・・・・・・・ 14
(7) 能登地区の繊維・雑品業・・・・・ 15
(8) 能登地区の観光業・・・・・・・・ 16

５．経済指標 ・・・・・・・・・・・・・17～18

６．特別調査
中小企業経営に関する各種支援制度の
利用について ・・・・ 19

（注）平成 30 年 4～6 月を今期、平成 30 年 1～3 月を前期、平成 30 年 7～9 月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率（%）	構成比（%）
製　造　業	２２９	２０３	８８．６	３０．０
卸　売　業	３６	３１	８６．１	４．６
小　売　業	２３０	２０８	９０．４	３０．８
サービス業	１３０	１１９	９１．５	１７．６
建　設　業	１１１	８９	８０．２	１３．２
不 動 産 業	３４	２６	７６．５	３．８
合　計	７７０	６７６	８７．８	１００．０

◇◆◇　概　況　◇◆◇

《 2018・4～6 月》

景気は「拡大を維持」との判断が据え置かれる中、製造業では過去最高売り上げや最高益を計上した企業が連日新聞紙上で取り上げられている。有効求人倍率も二カ月ぶりに低下したとはいえ相変わらず高水準を保っている。

こうした中、当金庫営業地区の今期（平成３０年４月～６月）業況Ｄ.Ｉ.は、△１２．５（前期△２０．０）と改善を示した。

地区内全体では、医薬品などの化学分野が好調に推移した製造業や、北陸新幹線延線工事が進む建設業、建設資材が好調な卸売業や小売業ではコンビニ、ドラッグストアが堅調に推移し、サービス業では入込客数の増加で宿泊業や飲食業が好調であったなど、不動産業を除く全業種で改善が見られた。

地場産業では、縫製業が４期ぶりに改善に転じ、電子部品・半導体製造業でも自動車、エアコン向け半導体、スマートフォン向け部品が引き続き好調を維持した。織布業は中国での織機台数減少の影響から自動車向けなどの受注が増加､繊維･雑品業も連続で改善し、観光業は季節要因も伴って大きく改善となった。

一方で木材業は横這い、廉価商品の売り上げが伸びなかった漆器業や、住宅関連が一進一退の状況が影響した建具業は２期連続で悪化を示した。

来期（平成３０年７月～９月）の地区内における業況Ｄ.Ｉ.は、△１０．５と更なる改善を予想する。地区内全体では、製造業は好調さを更に加速させ、小売業や卸売業も改善度合いは小さいものの堅調さを維持し、サービス業は更なる売上げの大幅な増加を見込んでいる。卸売業や建設業も引き続き改善を予想する。しかしながら、不動産業については引き続いての悪化を予想している。

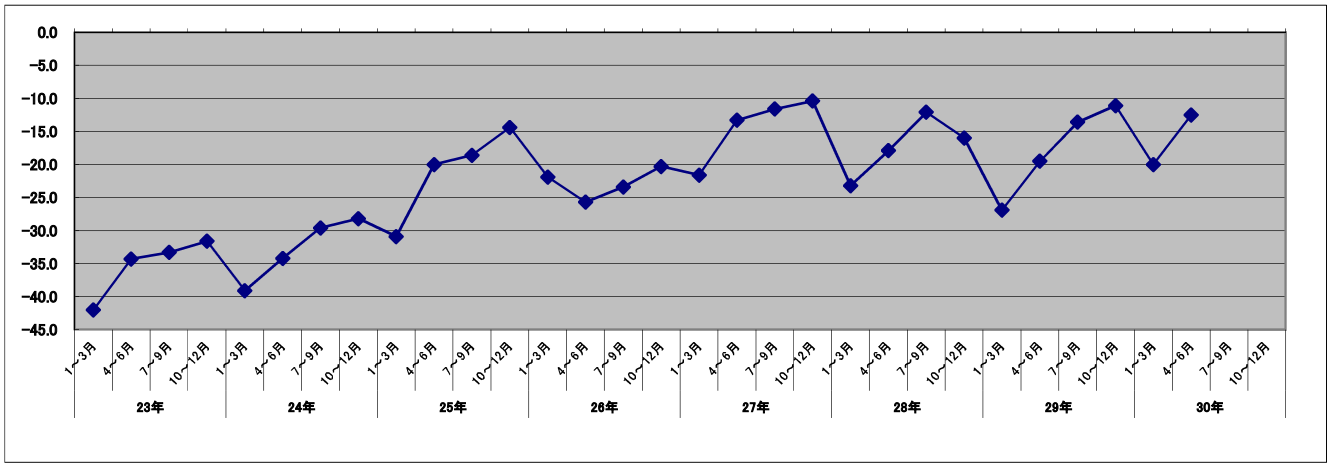
地場産業においては、電子部品・半導体製造業や織布業、シーズン本番を迎える観光業が好調を継続し、建具業が改善に転じると見込む。反面、縫製業や木材業に陰りが見られると予想する。また、漆器業や繊維・雑品業に大きな変化は無いと見ている。

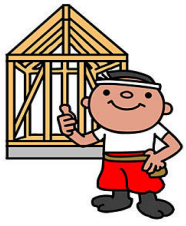
最近ではあらゆる業種に人手不足の影響が徐々に出始めており、IoT の導入や機械の改良に取り組む企業が増えてきている。ただ、非製造業の小売業、運送業、医療・介護など機械で代替できない業種では、営業時間や勤務体制の見直しなどの動きが見られるようになってきた。

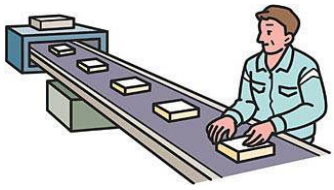
石川県では能登空港と羽田空港間の搭乗率保証制度で、１５年目の搭乗率が６６％を超え１２年ぶりに全日空から協力金を受け取ることとなった。冬場における首都圏からの「フグツアー」が人気を集めたことや、珠洲市での奥能登国際芸術祭が個人客を押し上げる要因ともなった。しかし、人口減少が続いている地区での地元客の利用増加は期待しにくいことも実状である。今年も開催する「能登ふるさと博」でどれだけの集客が望めるかは不透明である。

地区内の業況D．I．推移

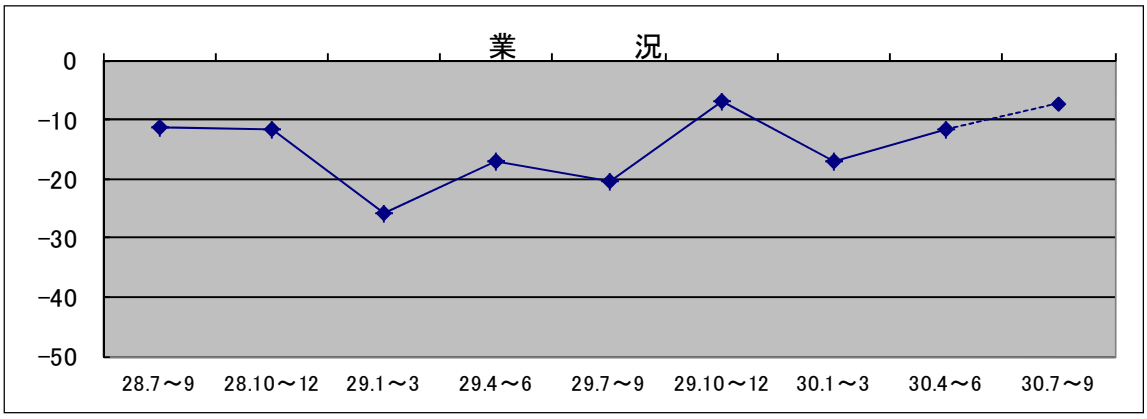
年	期間	業況D．I．	年	期間	業況D．I．
H23年	1～3月	△ 42．0	H27年	1～3月	△ 21．6
	4～6月	△ 34．3		4～6月	△ 13．3
	7～9月	△ 33．3		7～9月	△ 11．6
	10～12月	△ 31．6		10～12月	△ 10．4
H24年	1～3月	△ 39．1	H28年	1～3月	△ 23．2
	4～6月	△ 34．2		4～6月	△ 17．9
	7～9月	△ 29．6		7～9月	△ 12．1
	10～12月	△ 28．2		10～12月	△ 16．0
H25年	1～3月	△ 30．9	H29年	1～3月	△ 26．9
	4～6月	△ 20．0		4～6月	△ 19．5
	7～9月	△ 18．6		7～9月	△ 13．6
	10～12月	△ 14．4		10～12月	△ 11．1
H26年	1～3月	△ 21．9	H30年	1～3月	△ 20．0
	4～6月	△ 25．7		4～6月	△ 12．5
	7～9月	△ 23．4		7～9月	
	10～12月	△ 20．3		10～12月	







製造業



【概　況】

スマートフォン向け電子部品・デバイスが拡大を続け、半導体も中国でのエアコン向けの受注が増加、医薬品など化学分野も引き続き好調に推移した。繊維は弱含みながらも自動車向けなどが堅調であった。結果、今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は、製造業全体で△１１．８（前期△１７．２）と大きく改善を示した。

来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は△７．４と更なる改善を予想する。

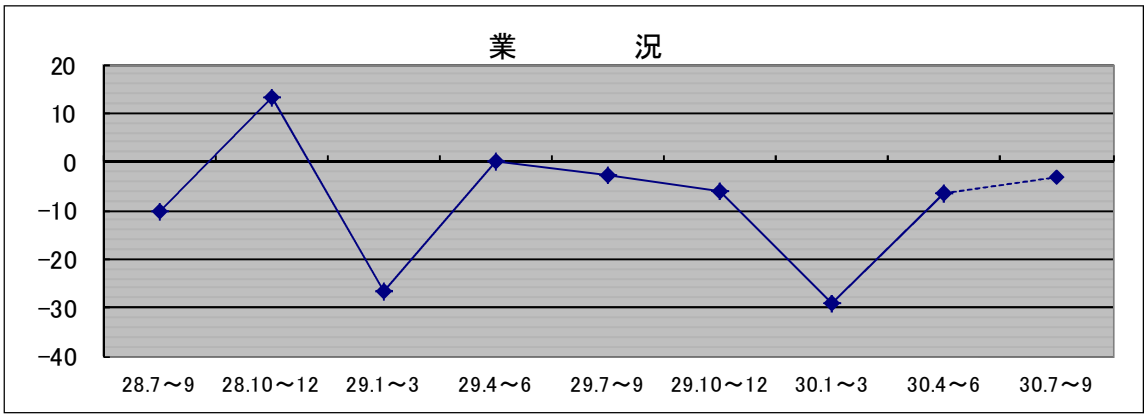
一方で、人手不足の影響も徐々にではあるが出始めている。それに伴う人件費の上昇や原材料価格の高騰を価格に転嫁する動きも出てきているが、今のところ自助努力で補っている企業が多く、販売価格の目立った上昇には繋がっていない。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△11.2	△11.8	△26.0	△16.9	△20.5	△7.0	△17.2	△11.8	△7.4
売　上	△7.1	△2.9	△23.0	△6.5	△17.6	2.0	△17.2	△3.4	△3.0
収　益	△10.7	△4.9	△29.0	△9.5	△19.0	△6.5	△18.2	△9.4	△4.4
資金繰り	△7.6	△9.8	△15.5	△10.0	△16.1	△10.4	△9.1	△9.9	△6.4
人　手	△7.6	△10.3	△11.5	△11.4	△8.3	△14.9	△14.1	△8.9	△9.9
設　備	△9.1	△6.9	△6.0	△6.5	△5.4	△6.0	△7.6	△9.9	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	15.9 %	提携先を見つける	27.4 %
同業者間の競争の激化	10.5 %	経費を節減する	18.6 %
輸入製品との競争の激化	9.8 %	販路を広げる	17.9 %

卸売業



【概　況】

卸売業全体の今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.は△６．５（前期△２９．０）と大きく改善を示した。特に北陸新幹線延線工事や東京五輪関連工事により建設資材分野が好調で、売り上げや収益の増加に繋がり、業界全体の底上げとなった。金属分野も堅調であったが食品や食肉分野は低調であった。

来期（Ｈ３０．７～９月）の卸売業全体の見通しは、△３．２と更に改善すると予想する。

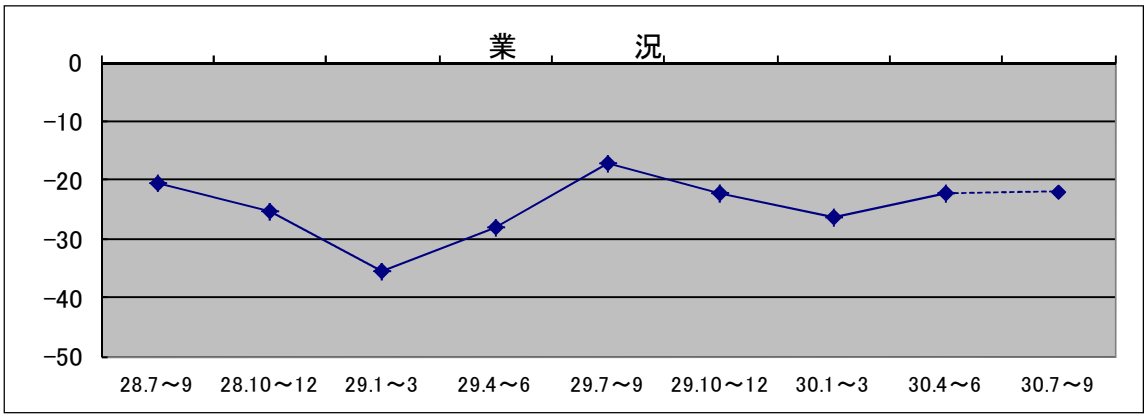
今後も建設資材関連分野などでは、新幹線特需、五輪特需を見込んでいるが、食料品、青果などは厳しい状況を予想する。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
業　況	△10.0	13.3	△26.5	0.0	△3.0	△6.2	△29.0	△6.5	△3.2
売　上	△23.3	△6.7	△41.2	5.7	△3.0	△12.5	△25.8	0.0	9.7
収　益	△23.3	△3.3	△44.1	0.0	△3.0	△9.4	△29.0	△3.2	6.5
資金繰り	△10.0	△3.3	△17.6	△11.4	6.1	△3.1	△19.4	△9.7	△9.7
仕入価格	10.0	△3.3	△5.9	5.7	9.1	9.4	16.1	12.9	12.9
在　庫	3.3	0.0	△17.6	△5.7	0.0	3.1	0.0	3.2	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	15.7 %	提携先を見つける	33.7 %
同業者間の競争の激化	13.3 %	販路を広げる	23.3 %
合理化の不足	8.4 %	経費を節減する	17.4 %

小売業



【概　況】

２月の大雪の反動もあり全体で売り上げが伸びた。特にコンビニやドラッグストアの販売額増加が目立った。百貨店では化粧品や装飾品、婦人服も好調であった。一方で、家電が伸びずパソコンも低迷している。結果として、今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は△２２．２（前期△２６．４）と改善を示した。

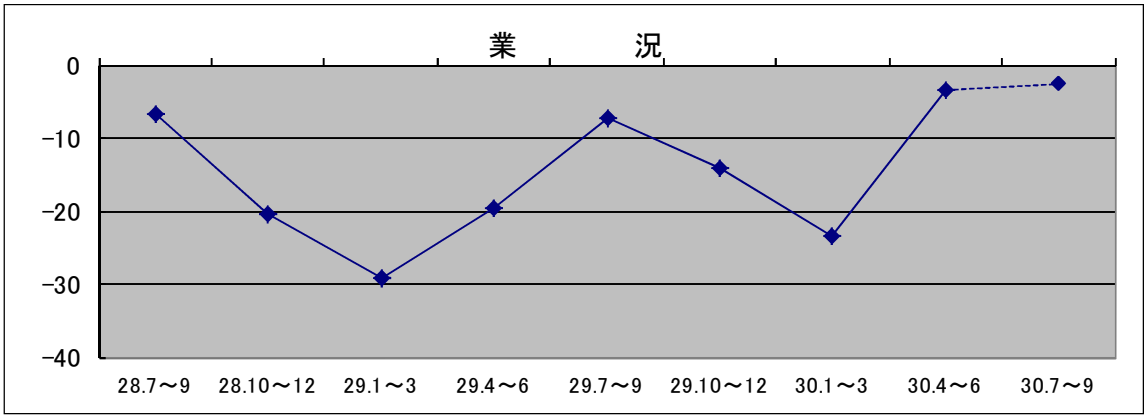
来期（Ｈ３０．７～９月）業況Ｄ.Ｉ.については△２２．１とほぼ横這いでの推移を予想する。この業界でも人手不足が続いており、営業時間の見直しなども見られるようになってきている。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△20.6	△25.2	△35.7	△28.2	△17.2	△22.3	△26.4	△22.2	△22.1
売　上	△10.3	△21.8	△29.5	△16.8	△3.3	△13.6	△29.5	△3.8	△10.6
収　益	△13.2	△24.8	△30.0	△17.3	△7.7	△15.0	△31.6	△5.3	△10.6
資金繰り	△16.2	△27.7	△26.1	△14.9	△14.4	△17.5	△19.2	△13.9	△14.9
販売価格	△1.5	1.0	1.9	△2.5	3.8	7.3	1.0	10.1	4.8
在　庫	3.9	0.0	△7.2	△2.0	1.9	5.3	△1.6	1.9	0.5

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	19.3 %	仕入先を開拓・選別する	29.3 %
売上の停滞・減少	15.1 %	経費を節減する	19.3 %
商圏人口の減少	14.4 %	品揃えを改善する	12.6 %

サービス業



【概　況】

冬場が過ぎゴールデンウィークなどによる入込客の増加に伴い宿泊施設や旅客運送業、飲食業が好調であったが、理・美容業、クリーニング業は伸び悩んだ。結果、サービス業全体の今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.は△３．４（前期△２３．５）と大幅に改善を示した。

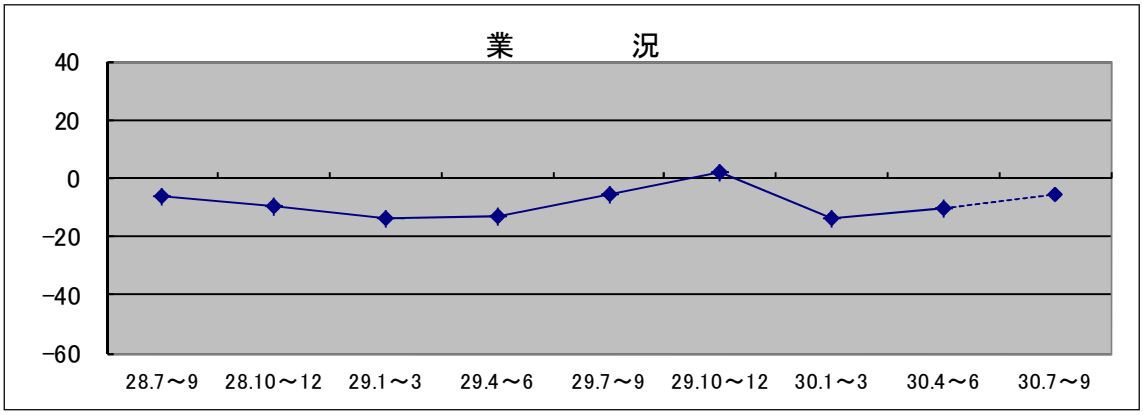
来期（Ｈ３０．７～９月）のサービス業全体でのＤ.Ｉ.見通しは△２．５と、さらに改善すると予想している。本格的な観光シーズンを迎えることから、宿泊施設や飲食業は引き続き好調に推移すると見られ、自動車修販業も堅調との見方を示している。反面、人手不足の影響が好調さに水を差す懸念もある。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　　況	△6.8	△20.3	△29.3	△19.5	△7.3	△14.2	△23.5	△3.4	△2.5
売　　上	0.0	△15.3	△29.3	△14.4	2.4	△14.2	△26.1	5.9	5.0
収　　益	△8.5	△19.5	△33.6	△17.8	△4.0	△19.2	△29.4	3.4	5.0
資金繰り	△16.2	△15.3	△24.1	△20.3	△16.1	△15.8	△20.2	△7.6	△6.7
料金価格	△3.4	△1.7	△6.0	△5.9	1.6	△3.3	△5.0	2.5	0.0
設　　備	△8.5	△7.6	△7.8	△9.3	△8.1	△12.5	△6.7	△4.2	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
代金回収の悪化	16.8 %	提携先を見つける	32.7 %
売上の停滞・減少	13.1 %	経費を節減する	19.1 %
同業者間の競争の激化	12.1 %	販路を広げる	15.5 %

建設業



【概　況】

公共事業が前年を上回り、北陸新幹線延伸工事も相俟って請負工事額も好調に推移した。今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.は△１０．１（前期△１３．８）と改善に転じた。

来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は△５．６と２期連続の改善を予想している。住宅関連にも動きが見られるようになってきている。

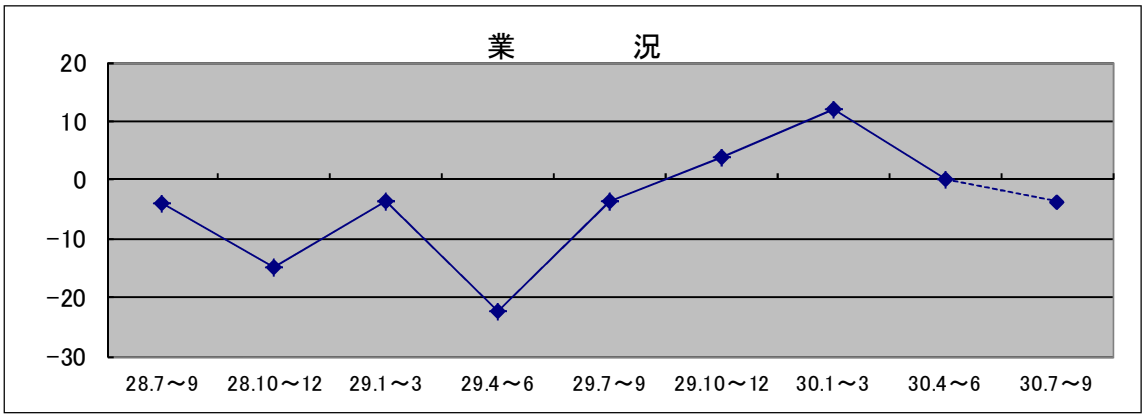
しかしながら、人手不足に加え工期に余裕もないことから休日を返上してまで働いてきた業界にとって、今般の「働き方改革」法は残業の抑制に繋がることは必至で、中小企業では大手からの発注に応えるべく、生産性の高い機械やＡＩの導入も必要になってきたとの声が聞かれる。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△5.9	△9.9	△14.0	△13.0	△5.8	2.0	△13.8	△10.1	△5.6
売　上	2.0	△5.0	△19.0	△3.0	△2.9	△5.1	△20.2	11.2	0.0
収　益	1.0	△9.9	△18.0	△8.0	△7.8	△7.1	△21.3	△1.1	△3.4
資金繰り	△5.9	△10.9	△16.0	△10.0	△10.7	△8.2	△4.3	△1.1	5.6
請負価格	△2.9	△16.8	△10.0	△5.0	1.0	△7.1	1.1	4.5	△1.1
人　手	△8.8	△10.9	△11.0	△11.0	△7.8	△14.3	△20.2	△10.1	△11.2

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	18.9 %	技術力を高める	28.0 %
売上の停滞・減少	13.9 %	経費を節減する	19.0 %
人件費以外の経費の増加	12.6 %	販路を広げる	13.0 %

不動産業



【概　況】

売買が好調であった企業も有れば、仲介が堅調であった企業など、物件が不足していることから企業によって景況感に大きな差が出ている。ただ管理業に関しては安定した動きとなっている。

今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は０．０（前期１２．０）と４期ぶりで悪化に転じた。

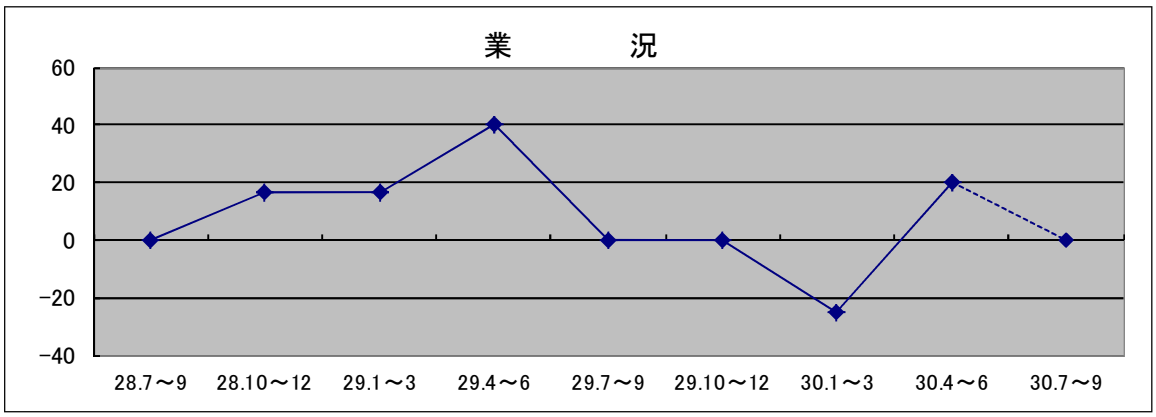
来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は△３．８と更なる悪化を予想する。在庫不足は変わらず、価格の高騰にも繋がると見る。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△4.0	△14.8	△3.6	△22.2	△3.6	3.8	12.0	0.0	△3.8
売　上	0.0	7.4	7.1	3.7	17.9	11.5	4.0	15.4	11.5
収　益	△8.0	7.4	10.7	3.7	17.9	7.7	0.0	11.5	7.7
資金繰り	△8.0	△11.1	△7.1	△11.1	△7.1	△7.7	△8.0	△11.5	△3.8
販売価格	16.0	7.4	△3.6	△3.7	7.1	11.5	△4.0	7.7	11.5
在　庫	12.0	3.7	△3.6	△18.5	△7.1	7.7	△4.0	△3.8	△3.8

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	31.0 %	宣伝・広告を強化する	22.1 %
同業者間の競争の激化	31.0 %	販路を広げる	19.5 %
利幅の縮小	19.0 %	情報力を強化する	16.3 %

能登地区の縫製業



【概　況】

調査対象先の減少から景況感のバラつきが大きく影響している。安定受注を確保している先は少ないものの、全体ではこれといった悪化要因は見当たらない。

結果、今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は２０．０（前期△２５．０）と大幅な改善を示した。

来期（Ｈ３０．７～９月）は業況Ｄ.Ｉ.を０．０と大きく悪化すると予想しているが、一部の企業の予想が全体に影響を与えていることが窺える。

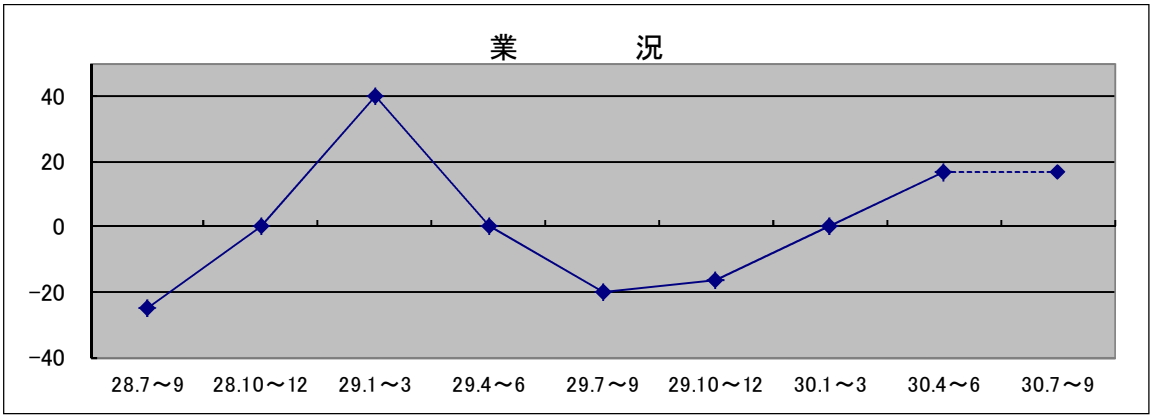
人手不足解消が喫緊の課題であることは間違いない。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	0.0	16.7	16.7	40.0	0.0	0.0	△25.0	20.0	0.0
売　上	△14.3	16.7	16.7	0.0	△40.0	△33.3	△25.0	0.0	0.0
収　益	△14.3	16.7	16.7	△20.0	△20.0	△33.3	△25.0	0.0	20.0
資金繰り	△14.3	0.0	0.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
人　手	△42.9	△33.3	△33.3	△40.0	△40.0	△66.7	△50.0	△20.0	△40.0
設　備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	17.6 %	経費を節減する	30.8 %
工場・機械の狭小・老朽化	17.6 %	提携先を見つける	23.1 %
地価の高騰	17.6 %	新製品・技術を開発する	15.4 %

能登地区の電子部品･半導体製造業



【概　況】

地区内における業界では、自動車やエアコン向けの半導体が好調に推移し、その他の電子部品についてもスマートフォン向けが引き続き堅調であった。

結果、今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.については、１６．７（前期０．０）と大きく改善を示した。これで３期連続の改善となっている。

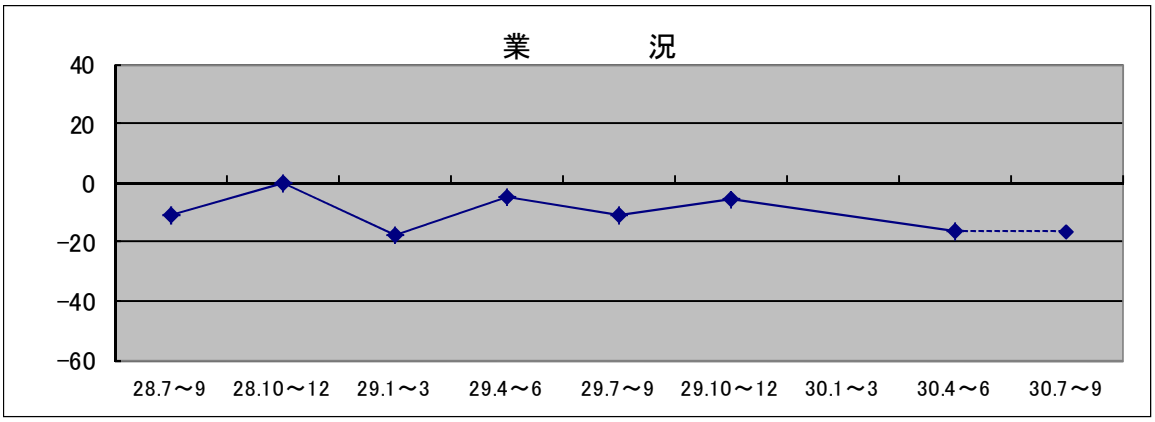
来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は１６．７と横這いを予想するも、半導体については、今後の電気自動車の普及や、中国でのエアコン向けに需要の伸びが予想されている。しかしながら、資金繰りの改善までには至っていないことが窺える。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年			平成29年				平成30年	見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△25.0	0.0	40.0	0.0	△20.0	△16.7	0.0	16.7	16.7
売　上	0.0	50.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7
収　益	25.0	50.0	0.0	0.0	△40.0	0.0	△20.0	0.0	0.0
資金繰り	25.0	△16.7	0.0	14.3	20.0	0.0	20.0	△16.7	△16.7
人　手	50.0	△16.7	0.0	14.3	0.0	△16.7	20.0	△16.7	0.0
設　備	△25.0	16.7	0.0	0.0	△20.0	△16.7	△20.0	△33.3	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	21.4 %	提携先を見つける	31.3 %
輸入製品との競争の激化	21.4 %	経費を節減する	25.0 %
人手不足	14.3 %	販路を広げる	12.5 %

能登地区の漆器業



【概　況】

春の観光シーズンを迎え入込客数は増加したものの、売り上げには繋がっていない。特に箸などの廉価商品の売り上げが落ち込んだ。結果、今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は△１６．７（前期△１１．１）と悪化を示した。

来期（Ｈ３０．７～９月）は業況Ｄ.Ｉ.を△１６．７と横這いを予想している。

夏場に向けても状況改善に向かうような明るい材料が見られないこともあって、業界全体での対応策が早急に求められるという声が多く聞かれる。

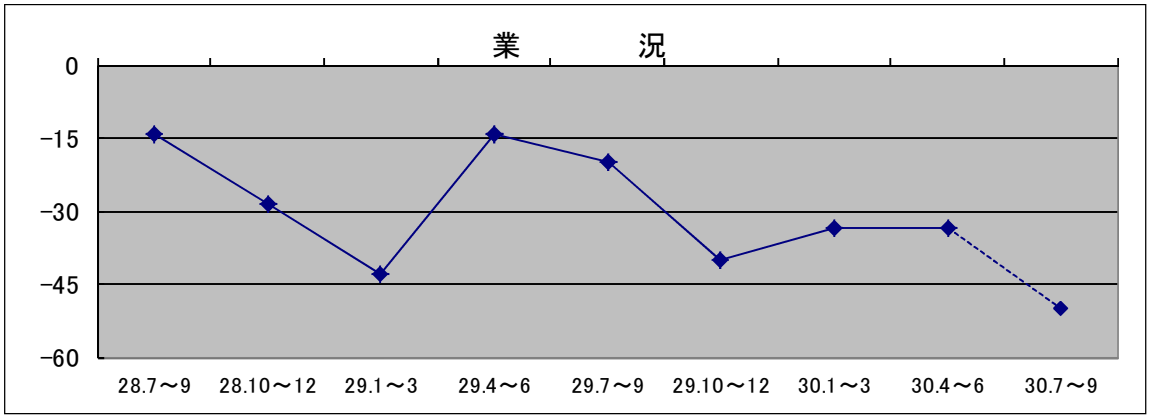
今般輪島市では、北陸財務局と包括連携協定を締結した。協定には漆器産業の強化に資する産業観光推進の項目も盛り込まれている。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28 年		平成29 年				平成30 年		見通し
	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	4～6 月	7～9 月
業　況	△11.1	0.0	△17.6	△5.0	△11.1	△5.6	△11.1	△16.7	△16.7
売　上	△11.1	△7.1	11.8	5.0	11.1	16.7	5.6	△11.1	△11.1
収　益	△11.1	△7.1	5.9	10.0	11.1	5.6	△5.6	△11.1	△11.1
資金繰り	△11.1	△21.4	△5.9	△5.0	△5.6	△5.6	0.0	△11.1	△5.6
人　手	0.0	△14.3	0.0	△10.0	△11.1	△11.1	△11.1	0.0	5.6
設　備	△16.7	△14.3	△5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	16.7 %	提携先を見つける	32.4 %
人件費の増加	15.2 %	販路を広げる	20.6 %
売上の停滞・減少	12.1 %	経費を節減する	17.6 %

能登地区の木材業



【概　況】

今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は△３３．３（前期△３３．３）と横這いを示した。住宅建築が来年の消費税増税を控えて駆け込み需要が徐々に出てきているが、今のところは目立った動きとはなっていない。

来期（Ｈ３０．７～９月）については、業況Ｄ.Ｉ.は△５０．０と悪化を予想するも、各指数は横這いを見込んでいる。

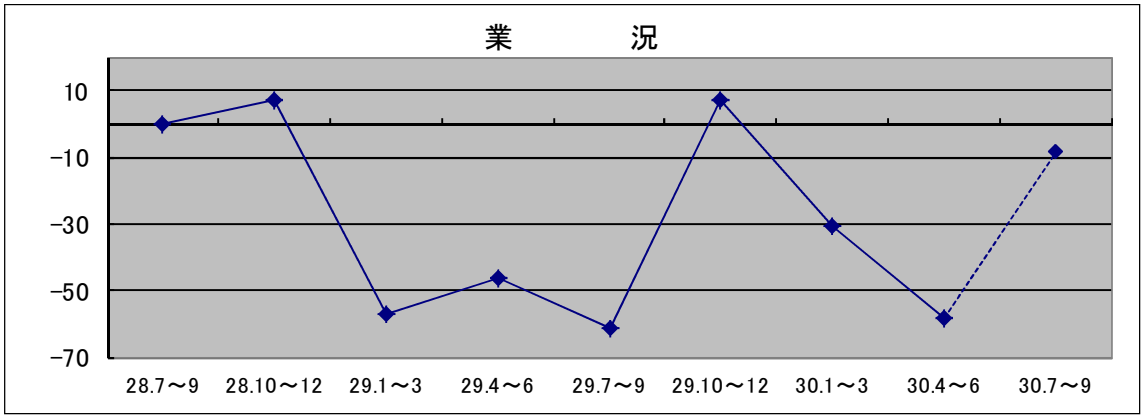
ケヤキを除く材木の売り上げは堅調で、外材の入荷も増加傾向を続けている。地元丸太の入荷は低調に推移した。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△14.3	△28.6	△42.9	△14.3	△20.0	△40.0	△33.3	△33.3	△50.0
売　上	△14.3	△14.3	△28.6	△28.6	△20.0	△40.0	△16.7	△50.0	△50.0
収　益	△28.6	△14.3	△14.3	△14.3	△20.0	△40.0	△33.3	△50.0	△50.0
資金繰り	△14.3	△28.6	0.0	△14.3	△20.0	△40.0	△16.7	△16.7	△16.7
人　手	0.0	0.0	△42.9	△42.9	0.0	0.0	△16.7	△16.7	△16.7
設　備	△14.3	△14.3	△14.3	0.0	△20.0	△20.0	△16.7	△16.7	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	11.8 %	経費を節減する	18.2 %
原材料高	11.8 %	提携先を見つける	18.2 %
人件費の増加	11.8 %	販路を広げる	18.2 %

能登地区の建具業



【概　況】

住宅建築については一進一退の状況が続いている。原材料の高騰に加え人件費の増加も負担となっている。

結果、今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.は△５８．３（前期△３０．８）と大幅な悪化を示した。

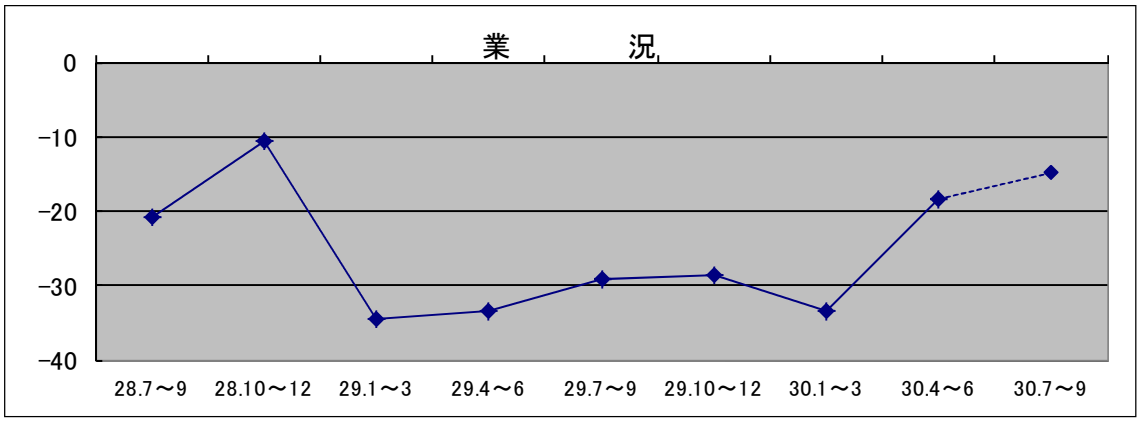
来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は△８．３と大きく改善すると予想している。消費税増税を来年に控え、今後徐々に住宅建築の駆け込み需要が見込まれることから業界でも期待しているところである。企業の中には各種イベントへの積極的な出展で販路拡大を画策しているところも見受けられる。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	0.0	7.1	△57.1	△46.2	△61.5	7.1	△30.8	△58.3	△8.3
売　上	6.7	△7.1	△50.0	△23.1	△38.5	0.0	△38.5	△25.0	16.7
収　益	0.0	△7.1	△71.4	△38.5	△61.5	△21.4	△46.2	△16.7	8.3
資金繰り	△6.7	△14.3	△50.0	△38.5	△53.8	△21.4	△15.4	△16.7	△8.3
人　手	0.0	0.0	△7.1	7.7	0.0	△14.3	△15.4	△16.7	△25.0
設　備	0.0	0.0	0.0	△7.7	57.7	△7.1	△15.4	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	25.0 %	提携先を見つける	28.1 %
売上の停滞・減少	20.0 %	販路を広げる	21.9 %
地場産業の衰退	10.0 %	経費を節減する	18.8 %

能登地区の織布業



【概　況】

今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.については△１８．５（前期△３３．３）と改善を示した。環境問題から中国での織機台数の減少が影響しており、当地区では生産能力を上回る受注も見られる。特に自動車向けやユニフォームなどに受注が増加している。

来期（Ｈ３０．７～９月）のＤ.Ｉ.については、△１４．８と更なる改善を予想している。

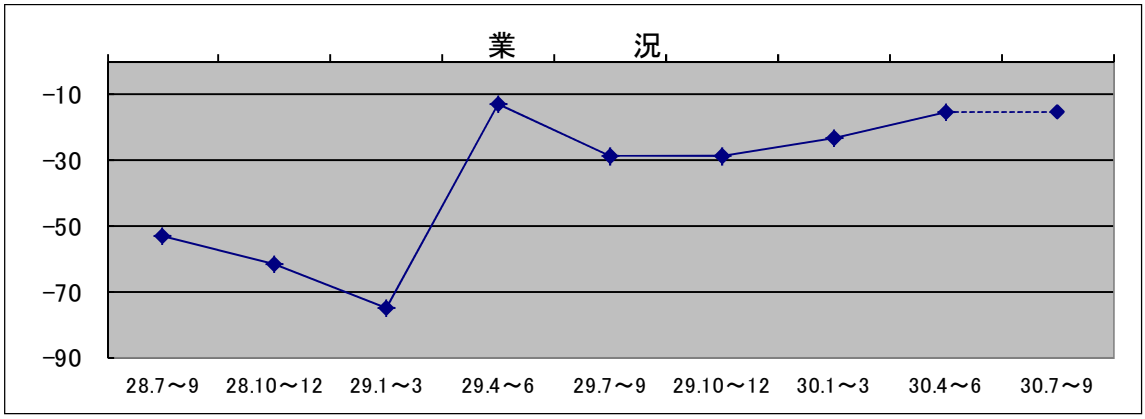
各企業では、燃料費や電気料金、人件費の増加などコスト上昇の中で、生産性の向上に向けＩｏＴ化や機械改良などへの投資が進んでいる。

《業績判断Ｄ.Ｉ.の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△20.8	△10.7	△34.5	△33.3	△29.0	△28.6	△33.3	△18.5	△14.8
売　上	△16.7	△3.6	△27.6	△22.2	△29.0	△25.0	△33.3	△11.1	△11.1
収　益	△25.0	△7.1	△37.9	△18.5	△22.6	△25.0	△29.2	△11.1	△11.1
資金繰り	△8.3	△7.1	△10.3	△3.7	△12.9	△14.3	△4.2	△3.7	△7.4
人　手	△16.7	△3.6	△17.2	△18.5	△6.5	△10.7	△12.5	△3.7	△3.7
設　備	4.2	0.0	3.4	△7.4	△3.2	△3.6	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	19.0 %	提携先を見つける	31.9 %
輸入製品との競争の激化	12.7 %	経費を節減する	21.7 %
同業者間の競争の激化	11.1 %	販路を広げる	17.4 %

能登地区の繊維・雑品業



【概　況】

今期（Ｈ３０．４～６月）業況Ｄ.Ｉ.は△１５．４（前期△２３．５）と改善を示しているも、特にエンブレース業界は、例年夏場に向けて受注減少の閑散期を迎える企業も多く、これから先販路拡大に向けての営業活動が活発化していく。

来期（Ｈ３０．７～９月）の業況Ｄ.Ｉ.は△１５．４と横這いを予想している。

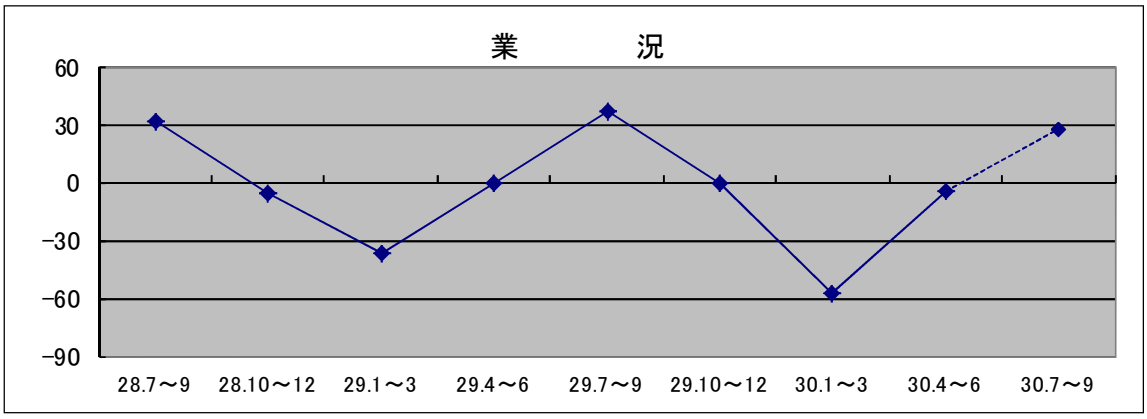
市場は、今後も多品種小ロットの受注が継続するとの見方が強く、利益の確保についても厳しい状況が続くと見られる。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	△53.3	△61.5	△75.0	△13.3	△28.6	△28.6	△23.5	△15.4	△15.4
売　上	△53.3	7.7	△83.3	△13.3	△21.4	△21.4	△17.6	15.4	△7.7
収　益	△53.3	7.7	△83.3	△13.3	△28.6	△21.4	△17.6	15.4	△7.7
資金繰り	△26.7	△15.4	△33.3	△6.7	△21.4	△21.4	△29.4	△7.7	△7.7
人　手	0.0	△7.7	0.0	0.0	7.1	△28.6	△23.5	0.0	0.0
設　備	0.0	△15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
輸入製品との競争の激化	32.0 %	提携先を見つける	30.0 %
売上の停滞・減少	16.0 %	販路を広げる	20.0 %
人件費の増加	12.0 %	経費を節減する	20.0 %

能登地区の観光業



【概　況】

今期（Ｈ３０．４～６月）の業況Ｄ.Ｉ.は△４．５（前期△５７．９）と大きく改善した。例年同様春の観光シーズンを迎え、入込客数が大幅に増加した。しかしながら、北陸新幹線開業をピークに改善度合いは徐々に小さくなってきている。

来期（Ｈ３０．７～９月）業況Ｄ.Ｉ.は２７．３と、シーズンの本番を迎えることから更なる改善を予想する。

能登空港の搭乗率が年間平均で６６％を維持出来た。去年は奥能登国際芸術祭が大きく景況の改善に寄与したが、今年は目玉となるイベントも無く、例年並みの動きとなると見ている。

《業績判断Ｄ．Ｉ．の推移》

	平成28年		平成29年				平成30年		見通し
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月
業　況	31.2	△5.6	△36.8	0.0	36.4	0.0	△57.9	△4.5	27.3
売　上	68.8	△16.7	△52.6	5.0	68.2	10.0	△47.4	36.4	45.5
収　益	50.0	△16.7	△52.6	0.0	54.5	△10.0	△47.4	31.8	40.9
資金繰り	6.2	△11.1	△5.3	△20.0	△4.5	△5.0	△42.1	△4.5	0.0
料金価格	0.0	△5.6	△21.1	0.0	△9.1	5.0	△5.3	4.5	4.5
設　備	△25.0	△22.2	△5.3	△10.0	△9.1	△20.0	△10.5	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	14.3 ％	提携先を見つける	31.0 ％
売上の停滞・減少	11.1 ％	経費を節減する	22.0 ％
同業者間の競争の激化	11.1 ％	宣伝・広告を強化する	20.0 ％

主要経済指標

◆ 労　働

（時間）

	有効求人倍率（季節調整値）	実質労働時間	うち所定外
28年　7月	1.65	154.4	11.2
28年　8月	1.60	148.9	10.7
28年　9月	1.62	151.2	11.2
28年 10月	1.62	149.2	11.4
28年 11月	1.67	153.0	11.8
28年 12月	1.68	152.1	12.0
29年　1月	1.76	141.6	11.6
29年　2月	1.80	151.0	11.8
29年　3月	1.82	151.9	12.2
29年　4月	1.86	156.3	12.2
29年　5月	1.90	146.8	11.6
29年　6月	1.92	157.9	11.7
29年　7月	1.88	154.1	11.7
29年　8月	1.86	147.5	11.2
29年　9月	1.84	154.0	11.9
29年 10月	1.84	152.2	11.9
29年 11月	1.85	153.6	11.9
29年 12月	1.80	153.1	12.1
30年　1月	1.97	137.1	10.0
30年　2月	2.02	143.9	10.1
30年　3月	1.97	148.1	11.0
30年　4月	1.98	153.4	11.4

資料：石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年（平成27年）を100としています。

	総合	前年同月比
28年　7月	99.6	−0.5
28年　8月	99.6	−0.6
28年　9月	99.6	−0.6
28年 10月	100.1	0.0
28年 11月	100.3	0.4
28年 12月	100.1	0.3
29年　1月	99.9	0.6
29年　2月	100.0	0.8
29年　3月	100.0	0.6
29年　4月	100.6	0.9
29年　5月	101.0	1.3
29年　6月	100.8	1.1
29年　7月	100.5	0.9
29年　8月	100.8	1.2
29年　9月	100.9	1.2
29年 10月	100.9	0.8
29年 11月	101.5	1.2
29年 12月	101.8	1.7
30年　1月	102.0	2.1
30年　2月	102.0	2.0
30年　3月	101.9	1.9
30年　4月	101.8	1.2
30年　5月	102.1	1.1

資料：石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

（百万円）

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
28年　7月	230	2,527	25,996	193,256
28年　8月	202	2,244	25,491	188,820
28年　9月	252	3,009	24,997	184,133
28年 10月	205	1,906	24,515	179,829
28年 11月	186	1,972	24,000	175,451
28年 12月	204	2,238	23,380	171,671
29年　1月	170	2,097	23,058	168,046
29年　2月	208	2,411	22,663	164,047
29年　3月	276	2,966	21,981	160,358
29年　4月	191	1,438	21,633	157,545
29年　5月	230	1,703	21,337	154,062
29年　6月	350	2,465	21,076	150,616
29年　7月	244	1,866	20,775	147,022
29年　8月	247	2,231	20,421	143,695
29年　9月	311	2,694	20,018	140,909
29年 10月	181	1,502	19,727	138,194
29年 11月	176	1,630	19,353	135,146
29年 12月	200	1,577	18,969	132,033
30年　1月	126	1,521	18,706	129,159
30年　2月	162	1,288	18,345	126,816
30年　3月	214	2,081	17,811	124,582
30年　4月	199	1,734	17,497	122,421
30年　5月	264	2,021	17,252	120,483

資料：石川県信用保証協会「保証月報」

◆ 企業倒産件数

（百万円）

	件数	金額
28年　6月	7	191
28年　7月	4	123
28年　8月	6	1,394
28年　9月	8	163
28年 10月	3	94
28年 11月	6	2,024
28年 12月	5	369
29年　1月	6	134
29年　2月	9	3,834
29年　3月	12	1,414
29年　4月	6	271
29年　5月	6	1,063
29年　6月	4	204
29年　7月	8	179
29年　8月	4	1,862
29年　9月	8	1,296
29年 10月	7	363
29年 11月	4	287
29年 12月	3	64
30年　1月	5	137
30年　2月	8	1,724
30年　3月	8	851
30年　4月	2	20
30年　5月	5	497

資料：㈱東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工 （千㎡、百万円）

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
28年 4月	127	28,392	733	72
28年 5月	92	18,391	461	50
28年 6月	139	26,797	863	82
28年 7月	116	24,556	838	77
28年 8月	117	21,307	579	57
28年 9月	106	19,914	702	63
28年 10月	108	19,294	677	63
28年 11月	113	22,517	788	69
28年 12月	78	13,641	524	52
29年 1月	116	21,200	625	58
29年 2月	77	16,435	464	46
29年 3月	87	16,538	613	56
29年 4月	100	18,079	591	62
29年 5月	109	20,698	738	70
29年 6月	119	22,664	698	68
29年 7月	100	18,552	650	64
29年 8月	87	16,788	687	65
29年 9月	117	22,877	776	68
29年 10月	115	22,358	787	71
29年 11月	97	19,637	765	70
29年 12月	82	14,987	538	51
30年 1月	77	15,477	480	44
30年 2月	117	33,595	520	52

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額 （件、百万円）

	件数	請負金額
28年 3月	235	12,468
28年 4月	338	34,735
28年 5月	275	15,943
28年 6月	513	19,460
28年 7月	508	12,376
28年 8月	500	13,461
28年 9月	499	10,879
28年 10月	412	11,321
28年 11月	335	5,985
28年 12月	285	6,018
29年 1月	302	5,792
29年 2月	308	8,997
29年 3月	261	13,715
29年 4月	180	29,500
29年 5月	305	27,848
29年 6月	460	11,685
29年 7月	532	13,767
29年 8月	467	9,415
29年 9月	791	28,897
29年 10月	563	12,909
29年 11月	484	9,990
29年 12月	377	6,783
30年 1月	242	4,295
30年 2月	222	7,073

資料:東日本建設業保証㈱(石川県内)

◆ 新車登録台数 （台）

	普通自動車	軽自動車
28年 6月	3,131	1,498
28年 7月	3,035	1,357
28年 8月	2,373	1,186
28年 9月	3,367	1,679
28年 10月	2,841	1,332
28年 11月	2,984	1,476
28年 12月	2,632	1,288
29年 1月	2,584	1,337
29年 2月	3,601	1,832
29年 3月	6,245	2,973
29年 4月	2,538	1,367
29年 5月	2,594	1,350
29年 6月	3,534	1,129
29年 7月	3,134	1,553
29年 8月	2,489	1,194
29年 9月	3,264	1,764
29年 10月	2,444	1,361
29年 11月	2,423	1,512
29年 12月	2,582	1,384
30年 1月	2,395	1,524
30年 2月	3,223	1,759
30年 3月	6,047	3,069
30年 4月	2,545	1,539
30年 5月	2,702	1,464

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数 （人）

	和倉温泉	輪島温泉
28年 7月	67,715	13,100
28年 8月	97,797	22,600
28年 9月	71,912	18,200
28年 10月	85,959	21,000
28年 11月	85,742	19,900
28年 12月	73,422	10,900
29年 1月	54,615	7,400
29年 2月	57,478	7,500
29年 3月	75,460	12,000
29年 4月	55,438	10,800
29年 5月	66,457	16,200
29年 6月	63,971	11,500
29年 7月	62,248	14,000
29年 8月	93,928	20,800
29年 9月	65,231	15,500
29年 10月	78,696	16,700
29年 11月	84,816	16,300
29年 12月	69,313	6,900
30年 1月	58,721	7,000
30年 2月	56,352	7,600
30年 3月	77,271	8,700
30年 4月	60,206	11,800
30年 5月	67,787	16,300

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

◆ 織物生産高 （千㎡）

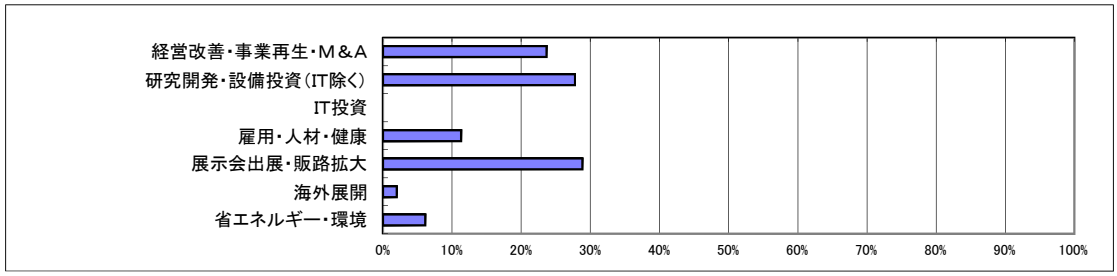
	合計
28年 7月	23,584
28年 8月	20,160
28年 9月	23,508
28年 10月	23,401
28年 11月	24,335
28年 12月	22,089
29年 1月	20,985
29年 2月	21,315
29年 3月	24,049
29年 4月	22,407
29年 5月	22,118
29年 6月	23,820
29年 7月	22,811
29年 8月	21,081
29年 9月	23,521
29年 10月	23,154
29年 11月	23,598
29年 12月	21,884
30年 1月	20,715
30年 2月	20,716
30年 3月	23,332
30年 4月	21,367

資料:石川県企画開発

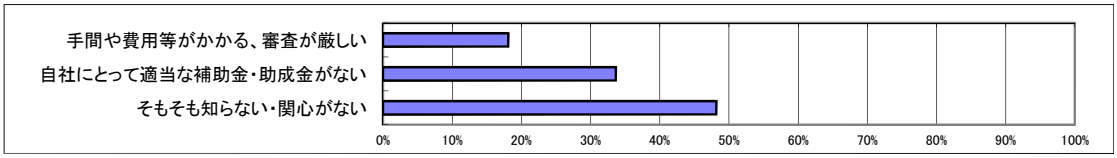
【中小企業経営に関する各種支援制度の利用について】 特別調査

問1. 中小企業支援に係る補助金や助成金で役に立ったものはありますか。また、活用したことがない場合の理由は何ですか。

〈活用したことがある〉

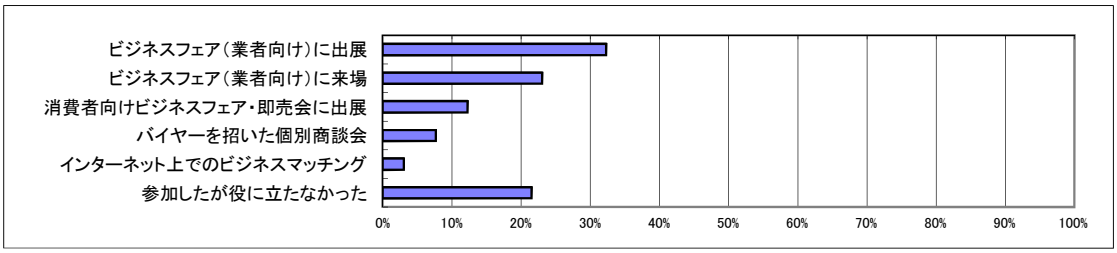


〈活用したことがない〉

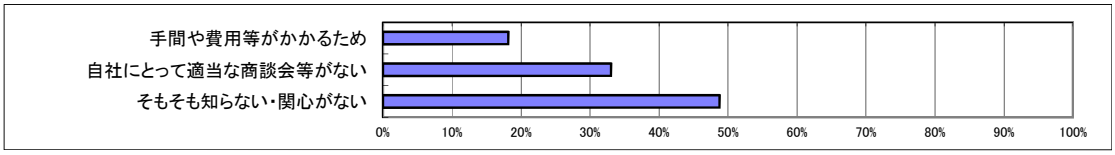


問2. これまで参加した商談会やビジネスフェアで役に立ったものはありますか。また、参加したことがない場合の理由は何ですか。

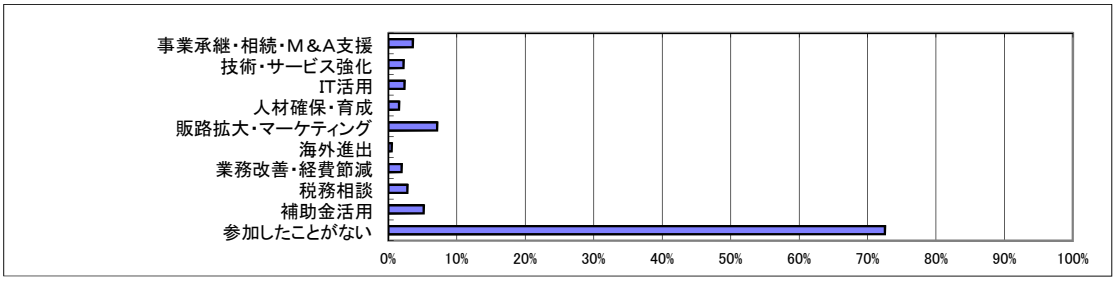
〈参加したことがある〉



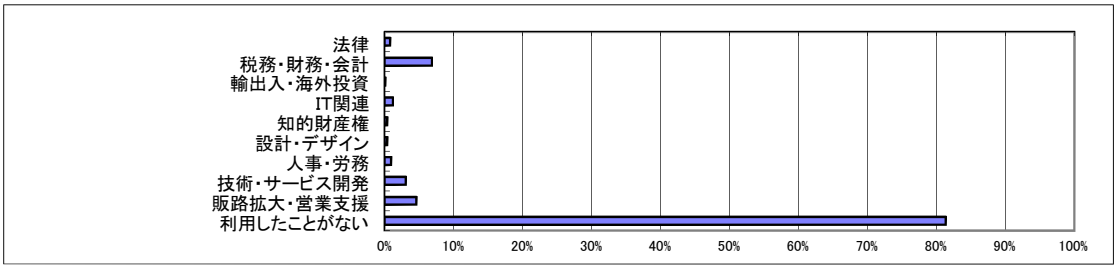
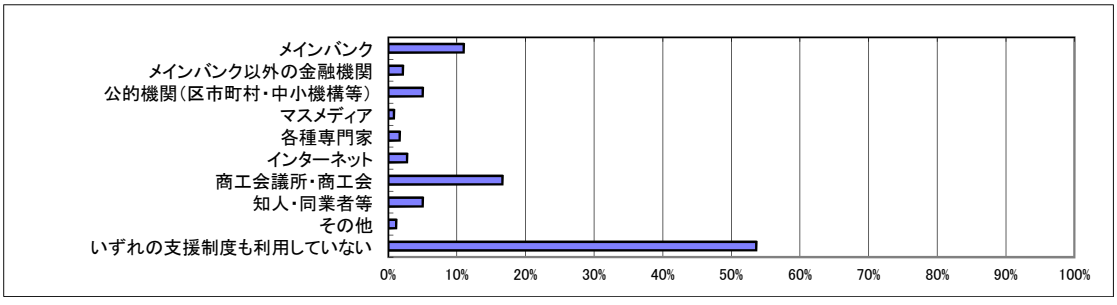
〈参加したことがない〉



問3. 公的機関等が主催するセミナーに参加したことがある場合、役に立ったテーマは何ですか。



問4. 公的機関や金融機関が行っている専門家派遣や相談窓口を利用したことがある場合、役に立った分野は何ですか。



問5. 上記の問1～4のような支援制度を利用するにあたり情報を主にどこから入手しましたか。